

# 情報かわら版

10  
2024

- ▶ 新潟県の畜産女子の取組を紹介！  
目指すは「卵のデパート」！真心と栄養が満点の卵のヒミツ
- ▶ 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日  
現在の予想収穫量（新潟）について
- ▶ 環境負荷低減のクロスコンプライアンス  
（みどりチェック）について
- ▶ NGT48農業部密着取材  
待ちに待った「ときむすめ」の収穫！

今月の表紙：そばの花（小千谷市）

電子版はこちら



今回は家族で養鶏を営む清水さつきさん（写真左）、眞佐夫さん（中央）、泉さん（右）にお話を伺いました。

さつきさん達が経営する(有)ツバメファームは燕市にあり、自社で生産した鶏卵を直売所やネット販売を通して直接消費者に届けています。飼料へのこだわりや、直売所を訪れる方々に向けた工夫など、直売に注力する農家ならではのお話をたくさん聞くことができました。

ツバメファームでは、鶏が食べる飼料にアスタキサンチンやごまを配合して与えています。アスタキサンチンが持つ抗酸化作用、ごまが持つセサミンやビタミンEは、飼料を食べた鶏の卵にも豊富に含まれており、自社ブランドの「アスタ卵」「ごま卵」として販売しています。また、アスタ卵を使用したゆで卵も作っていて、直売所で購入可能です。

新たなブランド卵も開発中です。血圧や血中コレステロールを低下させる効果があると言われている不飽和脂肪酸が豊富に含まれているエゴマのおからを配合した飼料を与えています。

アスタ卵とそのゆで卵やごま卵、そして開発中の「えごまたまご」——ツバメファームのブランド卵には食べた人に健康になってほしいという思いが込められています。

ツバメファームの鶏舎のそばに、卵の直売所が建っています（①）。ここではツバメファームのブランド卵が24時間いつでも購入できます。

直売所運営には様々な工夫が。

例えば②の写真。直売所の卵自動販売機は、お金を投入してボタンを押すと扉のロックが解除されるシステムですが、よく見ると扉の内側にレシートが貼ってあり、必要に応じて剥がして持っていくことができます。無人販売でもレシートを必要な方だけに渡せるよう考えたそうです。

③の写真は試作段階の工夫。直売所で人気の卵が山盛りに入った商品を複数買ってくれた人のために、積み重ねて持ち運ぶのに便利な重ね箱を試作したとのこと。

どちらの工夫も、直売所に足を運んでくださった方が、より卵を買いやすく、使いやすくなる心遣いです。

農業の中でも畜産、特に養鶏は地域や担い手に受け入れられないことが多く、かつて清水さんの周りにいた養鶏農家の方々も様々な理由で辞めていってしまったそうです。

そんな中でも清水さん達は、もみ殻と鶏糞を発酵させた堆肥を販売し、買ってくださった方が持ち帰りやすいように堆肥を袋詰めする機械を設置する等、地域と共存できる、消費者に「ツバメファームの卵が欲しい」と言われるような養鶏場を作ることを目指しています。



# 令和6年産水稻の作付面積及び

## 9月25日現在の予想収穫量について

農林水産省は、令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量を10月11日に公表しました。

新潟県の水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は11万9,800haで、前年産に比べ600haの減少が見込まれます。

作柄は、5月下旬から6月上旬にかけて気温が平年を下回ったことから初期分げつが緩慢となり、穂数は「やや少ない」となりました。

1穂あたりもみ数は、7月の日照が少なかったものの、気温が平年を上回ったことから「平年並み」となり、全もみ数（穂数×1穂あたりもみ数）は「やや少ない」となりました。

登熟は、8月上・中旬の天候に恵まれましたが、下旬は日照が少なくなったことから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たりの予想収穫量は537kg（平年に比べ5kg減少）が見込まれ、農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は98が見込まれます。

詳細は以下のURL又は二次元バーコードからご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/240925.html>

新潟県の作柄表示地帯別  
10a当たり予想収量（9月25日現在）  
（1.70mmのふるい目幅ベース）

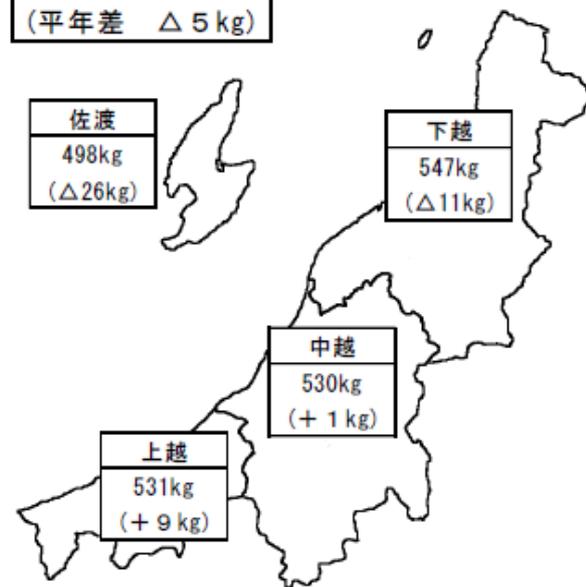
新潟県
537kg
（平年差 Δ5kg）

佐渡
498kg
（Δ26kg）

下越
547kg
（Δ11kg）

中越
530kg
（+1kg）

上越
531kg
（+9kg）



# 令和6年産の水田における作付状況について

農林水産省は、令和6年産の水田における作付状況（令和6年9月15日時点）を10月11日に公表しました。

全国の主食用米の作付面積は、前年実績から1.7万ha増加し125.9万haとなりました。新潟県の主食用米作付面積は前年実績から800ha増加し10万1,400haとなり、需要が好調な新市場開拓用米（輸出用米）、畜産業者からの要望が強いWCS用稲が増加した一方、飼料用米、米粉用米、加工用米、大豆が減少しました。（主食用米への転換などが要因）

農林水産省の支援策を活用しつつ、次期作以降も引き続き国内需要が見込まれる作物（加工用米、WCS等）及び外国産から国内産への需要が高まっている作物（小麦、大豆等）の作付けをご検討願います。

詳細は以下のURL又は二次元バーコードからご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/news/press/seisan/241011.html>



# 環境負荷低減のクロスコンプライアンス（みどりチェック）

- 農林水産省の全ての補助事業等に対して、最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を義務化する「クロスコンプライアンス」（愛称：みどりチェック）を導入。
- 補助金等の交付を受けるためには、みどりの食料システム法の基本方針に示された「農林漁業に由来する環境負荷に総合的に配慮するための基本的な取組」について、① 取り組む内容を事業申請時にチェックシートで提出すること、② 実際に取り組んだ内容を事業実施後に報告することを義務化し、令和9年度の本格実施を目標に、令和6年度から試行実施。

## どうして農林水産業で環境負荷低減に取り組まなければならないの？



農林水産業には環境に**よい多面的機能**がある一方で、**環境に負荷を与えている側面**もあります

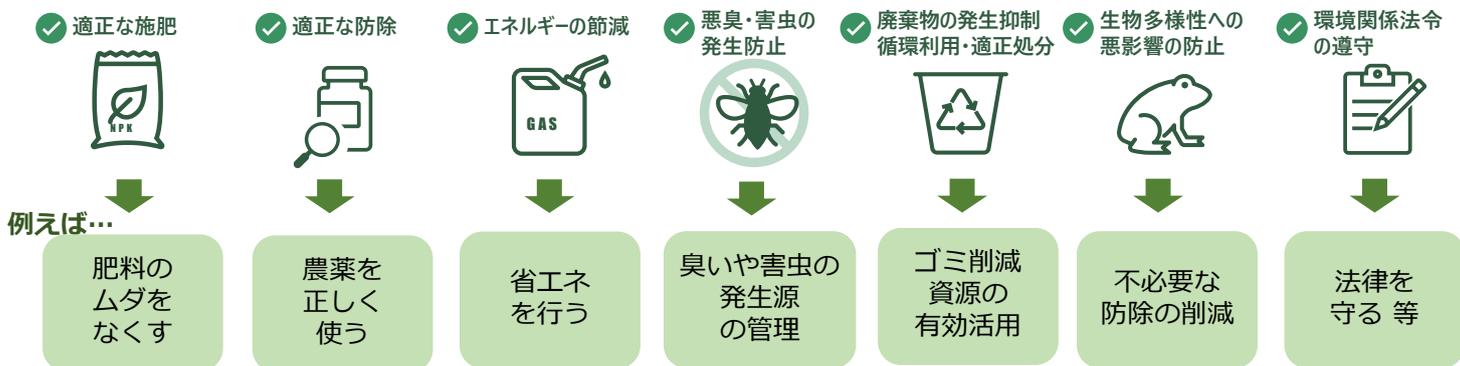
農林水産業は**環境の影響を受けやすいこと**に加え、**農林水産業自体が環境に負荷を与えている側面**もあります。

このため、日頃の事業活動の中で新たな**環境への負荷が生じないように、7つの基本的な取組を実践することが重要**です。

また、こうした取組を行うことが**消費者の理解**にもつながります。

「みどりチェック」は誰もが取り組める環境負荷低減への「初めの一歩」です。

## 「みどりチェック」の7つの基本的な取組とポイント



環境負荷低減の  
クロスコンプライアンスの  
愛称を  
**「みどりチェック」**  
としました！



「みどりチェック」の  
詳しい内容はこちらから！

▶ 農林水産省HP  
「環境負荷低減の  
クロスコンプライアンス」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/kurokon.html>



# NGT48農業部密着取材！ 待ちに待った「ときむすめ」の収穫！

10月2日、秋晴れのもと、ついに待望の「ときむすめ」の稲刈りを迎えました。収穫作業の前に、まずは恒例となった越後新鮮組の本間社長（先生）とNGT48メンバー（助手）による「これから刈り取るおコメが、皆さんの食べるごはんになります。」という食育授業から始まりました。今回の生徒は新発田市内の園児41人。

NGT48からは、奈良未遥さん、清司麗菜さん、佐藤海里さん、杉本萌さんの4名がコンバインを操ったり園児たちと稲を刈り取ったり大奮闘！



食育授業：左から本間社長、清司さん、奈良さん、杉本さん、佐藤さん



お揃いの空調服で快適作業  
冷気が出る優れものでゴキゲン

**奈良さん**：3年連続の稲刈り。慣れてきました。昨年よりおコメの出来がいいので食べるのが楽しみです。いろいろな人の力を借りてできたおコメ。心を込めて作っているので、まずは美味しく食べていただきたいです。

**清司さん**：子供たちとの手刈り作業は、昨年もやっているの自信があります。いい思い出にしてほしいです。「ときむすめ」を手渡ししたり、スーパーで手に取ってもらったり、美味しくできたおコメを皆さんに届けたい。

**佐藤さん**：本格的なコンバインの操作は初めてでソワソワしました。私も保育園の頃、手刈り体験をして、おコメってこうやってできるんだと身近に農業を感じました。農業の楽しさをSNSで発信できたらいいと思います。

**杉本さん**：初めてのコンバインにドキドキ。微調整の塩梅がむずかしかったです。来年は是非、田植えからやってみたいです。空調服はオータムポエムの種まきから着ましたが、世界が変わるくらい涼しかったです。



春作業から始めた「ときむすめ」。もうじき園児の皆さんにも届けられるそうです。いっぱい食べてほしいですね。

## ～米粉の利用拡大に向けた農林水産省の支援～

国内で唯一自給可能な穀物である米を原料とした米粉の利用拡大に向け、消費・流通・生産それぞれの段階における取組を集中的に支援します。

<事業目標> [平成30年度 → 令和12年度まで] 米粉用米生産量の増加 (2.8万トン → 13万t)

### 1. 商品開発等に対する支援

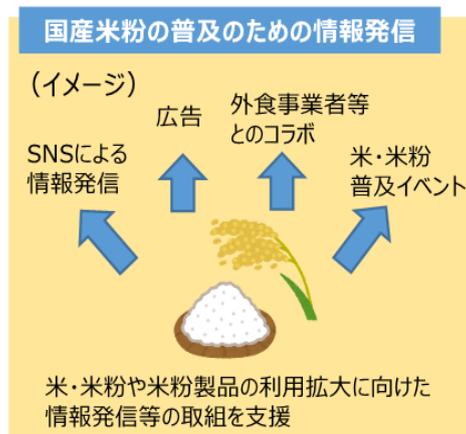
米粉の利用拡大を推進するために必要な国産の米粉や米粉を原材料とする商品開発とその製造・販売に係る取組等を支援します。

#### 国産米粉の特徴を活かした商品開発



### 2. 消費拡大に向けた支援

国内で自給可能な米粉や米粉製品の利用拡大に向けた情報発信等の取組を支援します。



米粉タイムズ  
URL : <https://komeko-times.jp>

## お問い合わせ

北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

